

新薬師寺旧境内の発掘調査

理科教育講座 准教授
金原 正明



新薬師寺旧境内基壇石組み最下段の凝灰岩（奈良～平安時代）

奈良教育大学の構内には、主として3つの遺跡が存在します。古いものから、吉備真備の墓という伝承のある吉備塚古墳、新薬師寺の旧境内、陸軍聯隊跡と続きますが、中でも最も不明なのは新薬師寺旧境内です。「東大寺要録」によれば、天平19年（747年）に聖武天皇の病氣平癒を祈願して光明皇后が建立し、七仏薬師像を造立します。七仏薬師堂（金堂）や東西両塔などの七堂伽藍が並ぶ、四町にも及ぶ大寺院でした。位置や伽藍配置は詳細には伝わっていませんが、正倉院に所蔵されていた「東大寺山堺四至図」（国宝）では法華堂（三月堂）の真南に位置することから、現存する新薬師寺を東限と考えて、奈良教育大学のキャンパスの東半分強が寺地に含まれると推定されています。

七仏薬師堂（金堂）には、七仏薬師や脇侍、十二神将など計33体の仏像が安置され、南都最大で九間もあつたと考えられています。「東大寺要録」によれば、応和2年（962年）の東大寺の南大門が倒壊した台風で、新薬師寺は金堂以下の主要堂宇が転倒倒壊し、以後往時の規模に戻ることはありませんでした。明治になって陸軍聯隊が新設された折、大きく改変整地されたため、さらに不明となりました。陸軍聯隊も軍機密であるため、建物の配置図すら残っていません。

今回の調査（執筆時は現在進行形）は、特別支援学級校舎の改築に伴うもので、奈良教育大学の東北隅に位置します。上層には、陸軍聯隊の明治の将校集



陸軍聯隊跡将校集会所煉瓦積み基礎（明治時代）

会所と考えられる建物の6段積みの煉瓦造基礎が現われ、束柱の柱穴が密に並び、重厚な木造建築があつたことがうかがえます。その下は耕作土が堆積し、奈良時代の布目瓦が多量に出土するものの、開墾により大きく開削されており、古代の遺構を特定しにくい状況でした。奇しくも本稿を脱稿しかけた時に、基壇の石組みの最下段の凝灰岩がわずかに残存しているのが見つかり、東西40m以上の規模が復元され、調査区の北半に、七仏薬師堂（金堂）に相当する大きさの堂宇が建てていたことが明らかになりました。

児を育み母体を保護するカルシウム 栄養の動態を探る



生活科学教育講座 教授
米山 京子

■ 妊娠・授乳期の栄養

「メタボ」の横行する今日、我が国でなお不足している栄養素はカルシウムです。カルシウムは胎児・乳児の発育の源であり、妊娠・授乳期には需要が高まります。古くは「子どもを一人産むごとに歯を一本ずつ失う」と言われましたが（今は少子化ですが無縁ではありません）、これに対する科学的なデータはほとんど見られません。その理由は、骨のミネラル量を把握する従来の測定機器は、少量とは言え放射線被爆があるため、妊婦や授乳婦には利用できなかったからです。超音波骨密度測定装置が開発されて以来、私はそれを武器に母子ともに望ましい栄養状態を明らかにするために、血液や尿中の骨代謝マーカーと併せて、妊娠と授乳期、授乳後の母子間のカルシウムの動態を探っております。妊娠・授乳期は骨代謝が亢進（こうしん）しているため、栄養摂取状況によっては、逆に出産・授乳が逆に骨密度を高めるチャンスともなるのです。



最新装置による骨密度測定

期間に正確なデータが得られますが、その適用はあくまでも動物の範囲内です。ヒトを対象とした疫学研究では、通常の生活条件下で得られた個人差が重要な情報源となるため、何を指標とし、いかに客観性を保つか、対象者を増やすかが鍵となります。一例一例データを蓄積していく過程は、とても時間や労力を要し退屈なものです。得られた成果は確実なエビデンスとなり、直接ヒトへの適用を可能にします。

■ 教育学部における本研究の意義

今日の若者の生活の乱れやダイエツト指向は、本学学生も決して例外ではないことを日頃痛感します。義務教育教員になる者は、特に自らの生活管理能力も高く要求され、それが備わってこそ子どもを理解することができ、教育に携われるはずで。研究で得られた成果を授業の生きた教材とし、学生自らの生活行動の変容と実践に繋がるよう取り組んでおります。

人と人の関わり合いと教育



学校教育講座 准教授
出口 拓彦

■ 教室内の人間関係

学校での学習は、基本的には「先生と子ども」「子どもと子ども」という、人と人の相互作用を通して行われます。そして、「けんかをしてすぐに仲直りができる友だち」「何でも話を聞いてくれる先生」「怒るとちよつと怖い先生」など、そこにはさまざまな人々との関係があります。

このような教室内の人間関係が、学習活動にどのような影響を与えるのかについて、心理学的な視点から研究しています。さらに、研究で得られた知見を基にして、いろいろな授業案を作成しています。現在は、特に「協同学習」や「授業中の私語」に関心を持っています。

■ 私語研究の面白さ

「授業中の私語」が持つ（学問的な）面白さは、「多くの学生は「私語はいけないこと」と考えているにも関わらず、私語をしてしまっている」というところにあると思います。なぜ人は、「してはいけない」と考えていることを「してしまう」のでしょうか？

この問いに対して、学生が持つ「共感性」や「大学への適応」といった事柄に着目し

■ ゼミについて

今年度の4月に赴任したため、まだ4年生はおらず、3年生が2人だけの小規模なゼミです。基本的に、学生が持っている興味・関心に基づいた教育・指導ができればと考えています。今は、大学祭での発表を目標に、藤田先生のゼミ生と協同で「ユーモア」について調べています。自分の専門分野とは多少異なるテーマですが、なかなか興味深い事項でもあり、学生と一緒に勉強・研究していければと考えています。



ゼミの風景